

2004年1月6日発行

2004年のおもな天体現象

【1月】 土星の観測好期

1日に土星が、衝といって太陽と正反対の方向にきて、日の入り時に東から昇り、日の出時に西に沈むので一晩中見えます。位置は、ふたご座。光度は0等星。

なお、1997年10月に打ち上げられたアメリカの土星探査機が本年7月には土星に到着予定です。

りゅう座流星群（しぶんぎ座流星群）

2日～5日ごろにかけて、明け方の北東の空に見えるりゅう座イオタ星付近から流星が飛び出すように見えます。最も多いのは4日の明け方で1時間に30個ぐらい見えるでしょう。

【3月】 木星の観測好期

5日に木星が、衝といって太陽と正反対の方向にきて、日の入り時に東から昇り、日の出時に西に沈むので一晩中見えます。位置は、しし座。光度は-3等星。8月末まで夕方の空に見えます。

水星と金星の観望好期

29日に水星（0等星）が、東方最大離角といって太陽から最も東に離れ、夕方の西空に見えます。この前後1週間が観望の好期です。また、30日には、金星が東方最大離角になり、夕方の西空に見えるので、観望の好期です。

五惑星が夕方の空に見える

先に紹介した水星の東方最大離角の前後1週間ほど（3月20日～4月10日）は、水星、金星、火星、木星、土星の5つの惑星が夕方の空に出そろういます。水星が西空低く、金星と火星が西空のプレアデス星団の近くで並んでいます。25日には、月（月齢4）も加わり美しい眺めになります。木星が東空、土星が南空に見えています。このように、夕方の空に5つの惑星がそろうのは、2002年5月以来です。

【5月】 皆既月食

5日の明け方、日本全国で皆既月食が見えます。月食のはじまりが午前3時48.3分、皆既月食のはじまりが午前4時52.0分、皆既月食の終わりが午前6時8.4分、月食の終わりが午前7時12.2分です。この月食は、アジア大陸で観測しやすいですが、日本では月食のまま月が沈むので、最後まで見ることはできません。明石の月の入り時刻は午前5時6分です。

2つの大彗星が見える

2001年8月に発見されたニート彗星（C/2001Q4）が、5月上旬から中旬に夕方の西空で、2等級の明るさ、尾の長さ数十度になると予想されています。また、2002年10月に発見されたりニア彗星（C/2002T7）も5月下旬に夕方の西空で、2等級、尾の長さ数十度になると予想されています。いずれも肉眼で見えると予想されています。

【6月】 金星の太陽面通過

8日の昼間に金星が太陽の前を通過するようすが日本全国で見えます。明石・神戸では、午後2時11分に太陽の東側の縁から入り、太陽と金星が重なった状態で日の入りになります。明石での日の入りは午後7時11分です。観望には望遠鏡が必要です。（注意：直接のぞかないこと。太陽面を白い紙の上に映してみる）金星の太陽面通過がおこるのは1874年以来です。次回は、2012年6月6日。

【8月】 ペルセウス座流星群

12～13日にペルセウス座を中心に流星が見られます。1時間に60個ぐらい。今年は月明かりがないので観測条件はよい。

【9月】 中秋の名月

28日が中秋の名月。明石での月の出は、午後5時51分。

【10月】 部分日食

14日に部分日食が日本全国で見えます。明石・神戸では、欠けはじめが午前10時51分、欠け終わりが午前12時20分です。最大食分は、11時35分で、太陽の直径の13%が欠けます。

【11月】 しし座流星群

17～19日にしし座を中心に流星が見られます。1時間に30個ぐらい。今年は、月明かりがないので観測条件はよい。

【12月】 ふたご座流星群

12～14日にふたご座を中心に流星が見られます。1時間に50個ぐらい。今年は、月明かりがないので観測条件はよい。

明石市立天文科学館（電話078-919-5000）

〒673-0877 明石市人丸町2番6号

ホームページ：<http://www.am12.jp/>